

平成27年度第1回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	平成 27年 4月 20日 16時 ~ 16時 45分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、牧野、伊藤、浅野、家崎、水谷(敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	岡本 峰生
研究名	当院回復期入院中と退院後の在宅生活における身体活動量の被殻と身体機能の関連性について
研究内容 要旨	虚弱高齢者や身体障害者の寝たきり予防や健康維持・増進のためにも身体の活動が重要である。活動量計を用いて入院生活と在宅生活における身体活動量の変化を測定し、身体機能との関連性を検討したいと考える。
審議結果	承認
意見	既に承認された研究計画の軽微な変更であり、書類審議の結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	伊藤 裕亮
研究名	外来透析患者の足病変に対する意識調査
研究内容 要旨	末梢動脈疾患の発症が危惧されており、足病変から壊死し下肢切断を招くことがある。しかし、患者の足病変に対する知識はあいまいである。足病変に対して意識調査を実施し、認識の統計をとり早期発見・予防に対する意識を高めたい。
審議結果	承認
意見	書類審議の結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	西口 大貴
研究名	脳性麻痺者における歩行器の違いによるエネルギー効果の比較
研究内容 要旨	12歳以下の脳性麻痺児に対しては後方支持型歩行器の方が歩行中の体幹や下肢の伸展を高め、酸素消費量が少ないことが推奨されているが、それ以上の年齢では検証されていない。本研究では12歳以上の脳性麻痺患者における前方および後方支持型歩行器使用時のエネルギー効率を比較する。
審議結果	差し戻し
意見	侵襲は伴わないにしても研究対象者に負担を伴う研究であり、医師との共同研究が望ましい。 新しい指針に従い、研究目的、研究者として選定された理由、研究者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、データベースへの登録の予定、インフォームドアセントの方法などについて、説明書に記載する。
新規研究計画の審議	
申請者	野口 佑太
研究名	透析中の集団運動療法が身体機能・自律神経機能に与える影響
研究内容	透析中の運動療法を集団で行うことで運動習慣が構築されやすいと考えられる。そこで当院の透析患者に対して集団運動療法を実施して身体機能と自律神経機能にどのような影響を与えるか調査し、効果について検討する。
審議結果	差し戻し
意見	新しい指針に従い、研究目的、研究者として選定された理由、研究者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、データベースへの登録の予定、インフォームドアセントの方法などについて、説明書に記載する。
教育・研修	
委員長を講師として新しい倫理指針の内容について勉強会を行った。	